

関連科目，教科書および補助教材	
関連科目	国語Ⅰ
教科書	「精選現代文B」(三省堂)「精選古典B」(三省堂)
補助教材等	「ステップアップ高校漢字問題集」(東京書籍)「カラー版新国語便覧」(第一学習社)
学習上の留意点	
<p>教科書とノートをお忘れずに持って来なければならない。そうしなければ、教科書本文から答えを探す問題や前回ノートに書いたことを答える問題ができず、口頭試問点が減点になる。</p> <p>「小テスト」は、漢字テストが中心である。</p> <p>「その他」は「復習カードの提出」である。授業のポイントを3行程度の短い説明文にすることで、要点をまとめる力、短文を書く力を身につけてもらいたい。</p> <p>国語Ⅱ(3単位)の最終成績は、国語Ⅱ(現代文・漢文)と国語Ⅱ(古文)を2:1として評価する。</p>	
担当教員からのメッセージ	
<p>授業では、教科書を読む、説明を聞く、ノートをとる、問題を考える、指名されて答える、をほぼ同時に行う。同時に行うことで、脳を活性化させていこう。</p>	

授業の明細

回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	ガイダンス 随想①	国語の授業の進め方、ノートのとり方などについて理解できる。茂木健一郎「最初のペンギン」を読んで随想の読み方を理解する。 パラグラフ・リーディングができる	(復習) 復習カードを書く。
2	随想②	・全体の構造が理解できる ・論理マーカーを利用して、パラグラフの論理構造を理解できる	(復習) 復習カードを書く。
3	随想③	・指示語の指示内容を説明できる ・キーワードを説明できる ・トピック・センテンスとトピックを理解できる ・筆者の意見を要約できる	(復習) 復習カードを書く。
4	漢文(小話)①	「季札挂劍」「漱石枕流」をもとに訓読漢文の読み方を身に付ける。	(復習) 復習カードを書く。
5	漢文(小話)②	・訓読漢文を音読できる ・背景を理解できる ・句法を正確に理解し、適切な日本語で現代語訳できる。	(復習) 復習カードを書く。
6	漢文(小話)③		(復習) 復習カードを書く。
7	短歌①	短歌の読解の仕方を理解し、鑑賞文を書くことができる。	(復習) 復習カードを書く。
8	短歌②	・日本語のリズムを理解し、そのリズムで音読できる ・文法事項を理解し、短歌を正確に鑑賞できる ・鑑賞文を指定の様式で書くことができる	(復習) 復習カードを書く。 短歌の鑑賞文を書く。
9	前期中間試験		
10	答案返却・解説 短歌③	試験解説により、問題の解き方の理解を深めることができる。 短歌の鑑賞文が書ける。	(復習) 短歌の鑑賞文を書く。
11	評論(1)①	清岡卓行「ミロのヴィーナス」をもとに評論の読解の仕方を理解する。	(復習) 復習カードを書く。
12	評論(1)②	パラグラフ・リーディングができる ・全体の構造が理解できる ・論理マーカーを利用して、パラグラフの論理構造を理解できる	(復習) 復習カードを書く。
13	評論(1)③	・指示語の指示内容を説明できる ・キーワードを説明できる ・トピック・センテンスとトピックを理解できる ・筆者の意見を要約できる	(復習) 復習カードを書く。
14	評論(1)④		(復習) 復習カードを書く。
	前期末試験		
15	答案返却・解説 表現(1)	試験解説により、問題の解き方の理解を深めることができる。 読書感想文の書き方を理解できる。	

授業の明細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
16	評論(2)①	岩井克人「未来世代への責任」をもとに評論文の読み方を高める。	(復習) 復習カードを書く。
17	評論(2)②	パラグラフ・リーディングができる ・全体の構造が理解できる ・論理マーカーを利用して、パラグラフの論理構造を理解できる	(復習) 復習カードを書く。
18	評論(2)③	・指示語の指示内容を説明できる ・キーワードを説明できる ・トピック・センテンスとトピックを理解できる	(復習) 復習カードを書く。
19	評論(2)④	・筆者の意見を要約できる	(復習) 復習カードを書く。
	評論(2)⑤		(復習) 復習カードを書く。
21	表現(2)①	スピーチの準備をし、スピーチする。 ・インタビューシートとスピーチメモの作り方を理解できる。	(復習・予習) スピーチメモを完成させ、スピーチの練習をする。
22	表現(2)②	・スピーチメモをグループで修正し、修正したメモをもとにスピーチを練習する。 ・クラスメイトの前でスピーチする	
23	後期中間試験		
24	史記①	「鴻門之会」をもとに史話の読み方を理解する。 ・訓読漢文を正確に音読できる ・句法を正確に理解し、適切な日本語で現代語訳できる	(復習) 復習カードを書く。
25	史記②	・文章の背景を理解し、説明できる ・登場人物の心情を説明できる	(復習) 復習カードを書く。
26	史記③		(復習) 復習カードを書く。
27	評論(3)①	若林幹夫「メディアと歴史」をもとに評論文の読み方を深める。 パラグラフ・リーディングができる ・全体の構造が理解できる ・論理マーカーを利用して、パラグラフの論理構造を理解できる	(復習) 復習カードを書く。
28	評論(3)②	・指示語の指示内容を説明できる ・キーワードを説明できる ・トピック・センテンスとトピックを理解できる	(復習) 復習カードを書く。
29	評論(3)③	・筆者の意見を要約できる	(復習) 復習カードを書く。
	学年末試験		
30	答案返却・解説 まとめ 授業改善アンケートの実施	試験解説により、問題の解き方の理解を深めることができる。	
総授業時間数			60時間

関連科目，教科書および補助教材	
関連科目	国語 I
教科書	「精選古典B」(三省堂)
補助教材等	「カラー版新国語便覧」(第一学習社)、国語辞書
学習上の留意点	
<ul style="list-style-type: none"> ・提出物については、締め切りを厳守し、必ず提出すること。 ・授業中プリントを配布する。ノートに貼り付けるなどして、必要な時にすぐ見ることができるように各自整理すること。 ・補助教材の国語便覧を十分に活用すること。各作品の学習前に、関連するページに目を通しておくこと。 ・国語 II (3単位)の最終成績は、国語 II (現代文・漢文)と国語 II (古文)を2:1として評価する。 	
担当教員からのメッセージ	
<p>日本古典文学における様々なジャンルから代表的な作品を取り上げて鑑賞します。毎時間古文の音読を行いますので、まずは音読によって日本語の美しさを味わいましょう。それから作品を読みながら、基本的な古文常識や文法事項を学習します。作品の読解を通して、時代によって変わっていくもの(人々の生活・風習・ものの考え方など)と、現代の私達も共感できる、時代を経ても変わらない人間の情感とを読み味わっていきます。先人達が残して、そして永永受け継がれてきた古典文学作品に触れることで、ものの感じ方、考え方を広く豊かにして、人生をより豊かなものにしていきましょう。</p>	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	ガイダンス	・シラバスを読み、授業の概要、学習到達目標、成績評価方法等を理解する。	予習と復習：シラバスを熟読する。
2	随筆『方丈記』 「ゆく河の流れ」	・『方丈記』についての文学的知識を習得する。 ・文中の古典文法や古語を学習しつつ読解し、筆者の時代のものとのとらえ方、考え方を理解する。	予習：本文のノートへの書写。古語の語句調べ。 復習：本文の書写に口語訳を書き添える。
3	随筆『枕草子』 「春はあけぼの」 「雪のいと高う降りたるを」	・『枕草子』についての文学的知識を習得する。 ・文中の古典文法や古語を学習しつつ読解し、そこに現れた筆者の個性を読み取る。	予習：本文のノートへの書写。古語の語句調べ。 復習：本文の書写に口語訳を書き添える。
4			
5	物語『源氏物語』 「光源氏の誕生」	・『源氏物語』についての文学的知識を習得する。 ・文中の古典文法や古語を学習しつつ読解し、人物の心の動きを表現に即して読みとる。	予習：本文のノートへの書写。古語の語句調べ。 復習：本文の書写に口語訳を書き添える。
6			
7	物語『大鏡』 「弓争ひ」	・『大鏡』についての文学的知識を習得する。 ・文中の古典文法や古語を学習しつつ読解し、人物の行動、心情を的確に読み取る。	予習：本文のノートへの書写。古語の語句調べ。 復習：本文の書写に口語訳を書き添える。
8			
9	前期中間試験		
10	試験返却・解答解説	・解説を聞いて間違えた箇所を訂正する。 ・何をどのように間違えたのかを振り返った上で、正答を理解する。	
11	軍記『平家物語』 「先帝身投」	・『平家物語』についての文学的知識を習得する。 ・文中の古典文法や古語を学習しつつ読解し、人物の行動、造形を的確に読み取る。作品に表された「無常観」について考える。	予習：本文のノートへの書写。古語の語句調べ。 復習：本文の書写に口語訳を書き添える。
12			
13	近世小説『雨月物語』 「浅茅が宿」	・『雨月物語』についての文学的知識を習得する。 ・文中の古典文法や古語を学習しつつ読解し、物語の展開とともに、人物の心理を的確に読み取る。	予習：本文のノートへの書写。古語の語句調べ。 復習：本文の書写に口語訳を書き添える。
14			
	前期末試験		
15	試験返却・解答解説 まとめ 授業改善アンケートの実施	・解説を聞いて間違えた箇所を訂正する。 ・何をどのように間違えたのかを振り返った上で、正答を理解する。 ・一年間のまとめができる。	
総 授 業 時 間 数			30 時間